

記録  
16ミリ  
カラー／21分  
日・英語版

■企画  
国際協力事業団

スタッフ  
■製作  
村山英世  
■脚本  
村山正実  
花崎 哲  
■演出  
花崎 哲  
■撮影  
大野 洋  
山屋恵司  
■音楽  
染谷欣吾  
■録音  
伊藤 亨  
■編集  
加納宗子  
■解説  
山本 學

文部省選定 科学技術庁推奨 第28回科学技術映画祭科学技術庁長官賞

どのようにしたら人々のために生きた協力ができるか、技術をどうやってその国に根付かせることができるのか。今日、国際協力は、様々な形で取り組まれ、今後ますます活発になっていこうとしている。こうした技術協力の基礎は「人づくり」にあるといわれている。映画は、インドネシアのメラピ山麓を舞台に、自然の災害から人々の生命と暮らしを守る砂防事業の国際協力の実践を紹介し、そこで行なわれている「人づくり」への協力の姿を描いている。映画はまた、背景になっているインドネシアの自然と人々の生活、ポロブドゥールやワヤン芝居に代表される中部ジャワの文化についてもふれて、インドネシアへの理解と関心を深めるものとなっている。



インドネシアは、火山災害の多い国である。特に噴火によって噴き出された石や砂が強烈なスコールによって押し流される火山泥流(土石流)は、しばしば田畑を埋め、人命を奪い、山麓に住む人々に甚大な被害を及ぼしてきた。こうした長年にわたる土石流災害を食い止めるために、日本から調査団が派遣された。調査団は、火山の土砂が堆積している源流地帯や土石流に襲われた村を訪ねて、村人から当時の話を聞き、山麓の川の砂防施設と警報システムを考えていく。さらにインドネシアの技術者と協力して砂防工事の若い技術者を養成するセンターを作り、砂防工事も始めた。ジョグジャカルタ市につくられた火山砂防技術センターでは、日本の砂防の専門家も指導にあっている。そのセンターの教員の1人であるスバルカさんは、技術の遅れや、機械や資材の不足と疑問が山積していて、どうやって技術者を養成していくか頭を悩ませていた。